

ボランティア愛ランド北海道2016inむろらん

報 告 書

だいすき!むろらん・いぶり・ほっかいどう ～人・まちが元気に～

開催日 平成28年8月27日(土)・28(日)

会 場 室蘭市文化センター・港の文学館
旧室蘭駅舎・NHK室蘭放送局プラザμ

主 催 北海道社会福祉協議会

実施主体 ボランティア愛ランド北海道2016inむろらん実行委員会

共 催 社会福祉法人室蘭市社会福祉協議会・胆振ボランティア連絡協議会(ボランティアばんざいin胆振)
室蘭市ボランティア連絡会



CONTENTS

発刊にあたり	1
大会概要	2
分科会	3
交流会	14
開会式・道新ボランティア奨励賞授賞式	15
講 演	16
閉会式	21
愛ランドの一コマ	22
実行委員・協力者一覧	24
愛ランド準備・運営の一コマ	25

発行にあたり



ボランティア愛ランド北海道2016
inむろらん実行委員会

実行委員長 小林 與志美

"ボランティア愛ランド北海道2016inむろらん"に全道各地でボランティア活動をされているみなさん並びに関係者のみなさんが多数参加していただき大変ありがとうございました。心から感謝申しあげます。

“だいすき!むろらん・いぶり・ほっかいどう～人・まちが元気に!!～”をテーマに北海道社会福祉協議会・胆振各地域の社会福祉協議会並びに各関係者そしてボランティア仲間の力を結集し、この集いに参加したみなさんがいいお話を聞くことが出来、いい交流の場であり、そしてたのしい思い出が心に残る集いになるよう、開催に向けて準備を進めてまいりました。

当日、分科会会場から聞こえる笑い声や、交流会での名刺交換からのお楽しみ抽選会、全員で室蘭音頭を踊ったみなさんの笑顔、文化センター大ホールでの講演者のお話にうなづくみなさんを見て準備の苦労が消えました。そして集いが閉会し、それぞれのまちに帰るみなさんと私たちとが笑顔の交換ができたことがとても良かったなあと、いま振り返っております。

これからもボランティア活動に、ますます期待が大きくなる社会です。

この"ボランティア愛ランド北海道"はボランティア関係者が一同に集う大きな場であります。この集いでお互いに交流を深め、元気を分かち合い、ボランティアひとり一人の活動が地域福祉増進の一翼を担うことを願っております。



大会概要



大会参加者人数1,139名

平成28年8月27日（土）

■ 分科会 14：00～16：00

室蘭市文化センター・港の文学館・旧室蘭駅舎・NHK 室蘭放送局プラザμ

分科会

- ① 踊りと音楽とボランティア
- ② 学生ボランティアの活動
- ③ 地域で子育て・高齢者支援
- ④ 地域支援活動の現状
- ⑤ もっとすてきにレクリエーション～サロンに活かせるレクリエーション～
- ⑥ 子どもから大人まで芸術を学べる「交流の場の美術館」
- ⑦ むろらん歴史街歩き・歴史的建造物の活用と保全ボランティア
- ⑧ 室蘭の文学発展をささえるボランティア
- ⑨ コミュニティ FM を活用したまちづくり
- ⑩ 環境ボランティアについて考える
- ⑪ 災害ボランティアの在り方について

■ 交流会 17：30～19：00 蓬峯殿

平成28年8月28日（日）

■ 9：30～12：00 室蘭市文化センター

開会式

第40回道新ボランティア奨励賞授賞式

講演 濱崎 慎二様

「気象の視点からみる北海道の魅力ー防災から考える地域づくりとはー」

閉会式

1 分科会

踊りと音楽とボランティア

講師
夢^{ドリーム}212 (演奏 スマイル4Beat)
福祉社交ダンス「ときめきの会」
THE SUNJA
増岡 深雪

■ 実施内容

踊りや音楽で胆振を中心に活動している4つの個人・団体から活動紹介と演奏や踊りなどの発表をしていただきました。

① 夢^{ドリーム}212

安平町の視覚知的障がい福祉施設で結成されたバンド「スマイル4Beat」を支援する団体。活動紹介や全道各地で披露している演奏をしていただきました。

② 福祉社交ダンス「ときめきの会」

室蘭市で視覚・聴覚・身体障がいの方々と社交ダンスを楽しむ団体。活動紹介や熱心に練習してきたダンスを披露していただきました。

③ THE SUNJA

苫小牧市で活動するギターの小林明弘さんとオカリナの柴田順子さんのユニット。町内会や高齢者施設など地域で演奏している慣れ親しんだ曲を演奏いただきました。

④ 増岡 深雪

伊達市で実施している音楽アクティビティ教室など「歌あそび・歌体操」の中から、手話コーラスや指体操など参加型のプログラムでした。

発表者の楽しそうに踊る姿や力強い演奏や歌声に、会場も一緒に歌やジェスチャーを交えながら参加する場面があり、音楽の魅力が詰まった分科会でした。

■ 感想

歌やダンスの披露があり、それぞれの目的や活動内容に違いはありますが、参加者は楽しんでいました。運営側も急きょ、ステージに出て一緒に踊るなど楽しんでお手伝いさせていただきました。参加者に聴覚障がい者もいましたが、知っている歌などは手話で表現していました。時間が経つにつれ、参加者と出演者に一体感が生まれ、笑顔があふれる会場となりました。出演者の皆さまには、今後も笑顔と感動を届ける活動を続けていただければと思います。



2 分科会

学生ボランティアの活動

講師

室蘭市立桜蘭中学校
海星学院高等学校
室蘭工業大学ボランティアグループPAネットワーク



■ 実施内容

中学校、高校、大学と違った環境の中で実践しているボランティア活動について実践発表をいただきました。

① 室蘭市立桜蘭中学校

学校や生徒会が中心となって取り組んでいる①地域ボランティア（ゴミ拾い清掃、小学校や養護学校運動会への協力）②地域の雪かきボランティア③「総合的な学習の時間」に行う職業体験等の実践発表がありました。これらの活動を通して地域の活性化や福祉に貢献し、参加しやすい環境づくりに努めたいとの力強いまとめの言葉がありました。

② 海星学院高等学校

東日本大震災で甚大な被害のあった岩手県釜石市で、2012年から東北支援のため毎年実施している被災者や関係機関への「傾聴ボランティア」の様子を実際に参加した6名の生徒から感動的な発表がありました。現地での直接体験を通して「分かち合い、受け止めあう」ことの重要性を認識し、自らの今後の生き方の糧にしたいというメッセージが印象的でした。

③ 室蘭工業大学ボランティアグループPAネットワーク

地域活動に積極的にに関わり、市民や関係団体と連携してボランティア活動に取り組んでいます。その中で、小中学生に勉強を教える学習支援事業について発表がありました。「子どもと交流を深めつつ、教える側の自分たちも成長していきたい」「大学内では学べない体験を今後の人生に活かしたい」と語っていました。

■ 感想

若い世代から高齢者まで幅広い年代の参加がありました。それぞれの素晴らしい活動、ボランティアでの経験を通じての個々の成長、その若き輝きに触発された方も多いことと思います。

また、ボランティアの高齢化で次代の担い手を憂う世代に、希望の光を与えたのではないのでしょうか。今回集まってくれた学生ボランティアの皆さんが、社会人になってからもボランティア活動に関わり続けてくれることを切に願います。



3 分科会

地域で子育て・高齢者支援

講師

NPO法人ワニワニクラブの仲間達の会
追直地区民生委員児童委員協議会



■ 実施内容

「地域で子育て」については、「子育て支援ワニワニクラブの取り組みについて」として室蘭市の商業施設内で民間子育て支援施設を運営されている、NPO法人ワニワニクラブの仲間達の会の吉田淑恵理事長にご講演いただき、活動の中で得られたこれまでの経験や成果、また少子化の現在の状況や今後の思いなど、ご自分の言葉で参加者に語りかけていただき、参加者も興味深く聞いておられました。

「高齢者支援」については、追直地区民生委員児童委員協議会の信田有子会長に「支え合いマップづくりに取り組んで」として、地域で支え合う仕組みづくり、マップ作りの過程で「地域、近隣の助け合いこそが課題解決の糸口であり、ほとんどの問題は地域で解決できる。公的な制度に頼ってばかりでは本当の意味での助け合いはできない」など「支え合いマップ」を作成して得られた経験談を話していただき、参加者からは民生委員としての悩みやマップの作成手法など、高齢者支援に係る取り組みについて活発な質疑応答が見られました。

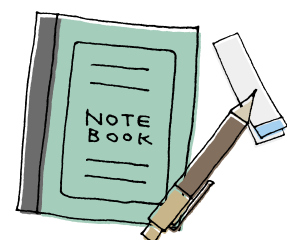
少子高齢化が進展する中で、地域課題解決の役に立ちたいと考えている参加者の熱意が感じられる分科会でした。

■ 感想

NPO法人ワニワニクラブの仲間達の会の運営には多数のボランティアスタッフの活動が、会員親子と地域サロンとの交流にも繋がっているなど、1つの活動が縦・横と広がり、繋がっていくことが実感できるお話でした。

また民生委員の業務の多種に驚きましたが、高齢者支援については今後高齢化によりひとり暮らしが増えるので、支援活動の重要性を感じました。世話焼きさんは近隣の支援として大きな力になっていることは、これからの地域の活動のあり方として繋がっていくことと思います。

今回は、参加者が熱心にメモをとり多数の質問がありました。ボランティアの役割と活動を見直す良い機会となり意義のある分科会となりました。



4 分科会

地域支援活動の現状

講師

NPO法人ゆめみ〜る
NPO法人御用聞き わらび



■ 実施内容

この分科会では「地域支援活動の現状」をテーマに、地域課題に取り組むためにNPO法人を立ち上げた2つの事例を報告いただきました。

地域福祉実践計画づくりに関わったことなどがきっかけで、地域の居場所づくりの必要性を認識し、地域食堂をはじめサロン活動などの取り組みを始めたNPO法人ゆめみ〜る（登別市）。長年の行政経験などから高齢者が地域で暮らし続けるには介護保険制度の隙間を埋める支援が必要と考え、会員制の有償ボランティアの仕組みを作ったNPO法人御用聞き わらび（白老町）。

どちらの発表にも地域の中でどんな支援が必要とされているか、まず俯瞰した視点から課題を把握・分析した上で目の前の現実的な問題に取り組むというプロセスがあり、実践を踏まえたとても説得力ある発表でした。

それぞれの発表に対し参加者からの活発な質疑を交え、地域を支援するボランティア等の社会的背景や意義について改めて認識を深めました。

■ 感想

NPO法人ゆめみ〜るは、参加者が「生きがい・自信」を見出せることも目的にしているためか、子どもから高齢者まで楽しげに生き生きと活動する様子が印象的でした。

NPO法人御用聞き わらびでは、ただ運送を行うだけではなく、利用者・支援者同士の声掛けや心配りが、多くの賛同につながっているのではと感じました。

いずれも、各地域と共通する課題が多く、申込み多数のため定員を拡大するほど関心の高いテーマであり、参加者は熱心に耳を傾けていました。



5 分科会

もっとすてきにレクリエーション ～サロンに活かせるレクリエーション～

講師

ケアレクリエーション倶楽部



■ 実施内容

この分科会では、サロン活動などで道具を使わず、体一つで実施できるレクリエーションについて学びました。

右手で丸を書き、左手で三角を書くなど、右手と左手で異なった動作を行うレクや二人一組で相手の指を捕まえるレクなど、楽しみながら、脳の活性化にもつながるレク体験を通じて学び、笑顔や笑い声の絶えない分科会でした。

また、サロンの運営にあたるスタッフは、参加者に自分の声がきちんと聞こえているか確認をする、レクを間違えた人がいたときに「自分の説明が悪かったですね」と声をかけ、再度、参加者全員にわかりやすく説明するなど、参加する人の立場に立って「また来たい」と思えるサロンになるよう、心がけることが大事とのお話がありました。

■ 感想

「楽しくなければレクリエーションではない!？」からだほぐしの準備運動から始まり、充実した楽しい、素敵なレクリエーションの展開でした。参加した140名の皆さんが、人前もはばからずに、あんな大きな声を出して笑っている光景は、あまり見ないかなあと思いながらも、一緒に笑っている自分がおりました。

内容は、誰もが自分達もやってみようかなと思えるような親切かつ噛み砕いた指導を皆さん受けたのではないのでしょうか。サロン活動を展開する時、参加者が行きたい楽しい場所であるのか、また参加する人達のやりたい気持ちを引き出すような言葉を大事に使うことが自分はできているだろうかなど「大切なことは何か?」と、自分自身に問い直すきっかけにもなり「しあわせなひととき」を過ごせた分科会でした。



6 分科会

子どもから大人まで芸術を学べる「交流の場の美術館」

講師

室蘭市民美術館をささえる会
室蘭市民美術館



■ 実施内容

講話では、昭和50年頃から気運が高まり、平成20年に設立された室蘭市民美術館の成り立ちと美術館をささえる会の活動について話されました。美術館の壁面には子どもたちの絵が描かれ、子どもの参加型美術館をめざした象徴とのお話しでした。

また、美術館で室蘭市に縁のある作家の絵を展示・紹介することや作品の発表の場とすることで、地域の芸術力の底上げにもつながっており、さらに、幼児から中学生までの作品展「港の写生会」で企業の協力により表彰を行うことで、地元の作家育成と子どもたちにとっては地元作家を知る機会となっているとお話しでした。

その後、工藤館長より現在展示している、高野次郎氏、西村貴久子氏の作品紹介と館内鑑賞、また、普段は公開していない収蔵庫を見学しました。

参加者からは、市民の力で美術館を建て、運営しているのはとても素晴らしいことだと感想が述べられていました。

■ 感想

講話で印象に残ったのは、陶芸等の体験教室や市内の幼児・児童・生徒へ積極的に開放していること。また、作品は市内在住や室蘭出身者から多く寄贈されていることです。室蘭に関わる芸術作品が、室蘭の「ささえる会」によって、室蘭市民に提供している。このような美術館は日本国内にあるのでしょうか。市民が主体となって運営している美術館は、室蘭市民の誇りであると感じました。

しかし、人口減少とともに「ささえる会」の会員が減少し、運営にも影響を及ぼしています。これからは、室蘭の誇りを維持するため、会員の増加へ積極的に協力していきたいと考えます。



7 分科会

むろらん歴史街歩き・歴史的建造物の活用と保全ボランティア

講師

蘭歴建見会
一般社団法人むろらん100年建造物保存活用会



■ 実施内容

分科会⑦は、開港から140年を経て、北海道の近代を支えた歴史をもつ室蘭。今でも市内には多様な歴史的建造物が残っています。それら建物を通じてまちの歴史を近代に残すため建物の調査を行うとともに保全を考える「蘭歴建見会」と、実際に建物を取得して活用を図る「一般社団法人むろらん100年建造物保存活用会」の活動について紹介がありました。資料の積出港として発展を遂げた室蘭の歴史について「蘭歴建見会」より説明があり、更に分科会の会場となった旧室蘭駅舎については、木造建築としては広大といえる柱のない空間をもつその特殊な構造について、室蘭工業大学の武田助教より解説がありました。

その後、8班にわかれた参加者は、4班ごとに2コースに別れ、市内約2kmを散策に出ると、市内に点在する歴史的建造物やゆかりある地名について説明を受けていました。

■ 感想

街歩きを開始する前に歴史的建造物の映像による紹介や歴史について講話は、街歩きへの興味をひく内容であり、記録者も参加者と一体になって聴き入りました。限られた時間の中での街歩きは、参加者の安全・安心の確保の観点から大変なことだと案じましたが、講師の皆さんの工夫によりスムーズに実施することができました。

終了の時間が近づき、街歩きから帰って来た参加者は皆笑顔で、無事に歩き終えた達成感を味わっているようでした。「ああ、楽しかった!」「良かったよ。ありがとう!」の声を聞いた時は、分科会が成功したことを実感し、とても嬉しく思いました。運営に係わったボランティア団体、個人との一期一会の出会いに感謝します。



8 分科会

室蘭の文学発展をささえるボランティア

講師

室蘭文学館の会



■ 実施内容

はじめに公立民営の文学館の企画、運営をボランティアで行っている様子を楽しくお話をいただきました。お話のあとは、2班に分かれて館内見学を行いました。芥川賞作家の長嶋有氏が「川端康成賞」受賞のニュースが届いた直後でもあり、講師の説明や展示に参加者も興味を深く見学していました。

また、休憩時間には、ボランティアスタッフによるコーヒーマシンのサービスも大好評でした。

最後に講師から参加者に「地元で文学館づくりに是非挑戦してほしいです」というメッセージで分科会は終了しました。

■ 感想

司会者の爽やかな声で室蘭の印象などを尋ねながら分科会が始まりました。横田館長のユーモア溢れるお話で参加者からは笑顔が絶えませんでした。文学館とは、博物館と図書館が一緒になって出来たこと、また館内の蔵書の多いこと、地元出身の作家のブース、最近人気のテレビドラマ「ととねえちゃん」暮らしの手帳のブースなど数多くありました。お宝の蔵書の多いことも自慢の一つとのことでした。館内ボランティアの知識の多彩さと運営活動、事業内容の努力に対して素晴らしいと思いました。地元の文学館の大切さを再認識しました。

参加者からは「素晴らしい場所に来てよかった!」「この分科会に参加して本当によかった」と何度も言っていました。



9 分科会

コミュニティFMを活用したまちづくり

講師

室蘭まちづくり放送(株)
FMびゅうサポーターズクラブ追い風プラス



■ 実施内容

はじめに「コミュニティFMを活用したまちづくり」について、室蘭まちづくり放送株式会社代表取締役社長沼田勇也さんから、コミュニティFMの設立までの流れや役割、災害時におけるラジオ放送の活用方法などのお話いただきました。

続いて、FMびゅうサポーターズクラブ追い風プラスの活動について石崎勝彦さんから「ラジオ局 つくる・支える ボランティア」と題し、ラジオ局を支えるボランティアについて、FMびゅうの前身であるボランティア団体「ぼこいふじエンターテイメント」からの活動や、現在の番組制作、イベントのお手伝い、技術指導など様々な形でラジオ局を支えているボランティアについてお話をいただきました。

講演後の質疑応答では、防災や運営についての質問があがり、参加者のコミュニティFMに対する関心の高さがうかがえました。

■ 感想

少人数の分科会だったため、参加者がゆとりを持って学んでいました。

ラジオ放送に携わったことがある方や防災に関心のある方々が参加されており、特に2012年の胆振地方大規模停電の際の活動については関心を示していました。

参加者からは、「災害時のラジオ放送に必要な機材は? 停電時の情報の集め方は?」など参加者も地元で災害が起きたことを想定しながら具体的な質問をしていました。

講師からは「コミュニティFMは、行政や地域全体で支えていかなければ運営は継続できない」とお話をされており、支援者を呼び込む方法などに参加者は耳を傾けていました。



10 分科会

環境ボランティアについて考える

講師

NPO法人ビオトープイタンキin室蘭
室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会



■ 実施内容

分科会⑩では、室蘭にあるイタンキ浜という海岸において、自然の回復・環境の維持等の活動を行っている2つの団体からお話をいただきました。

「NPO法人ビオトープイタンキin室蘭」からは、ビオトープ（多様な生き物が人の手を加えなくても生きていける環境）の完成までの経緯や、そこに生息する生き物や植物などの紹介、また現在では小学校の授業として自然体験学習に活用されている等のお話がありました。次に「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」からは、海岸を守るための清掃活動や後世へ伝えるための小中学校への出前講座、鳴り砂汚染状況や存続を訴えるパネル展示などについての活動報告をいただきました。また会場では、ビオトープに生息する生き物の展示（水槽）や鳴り砂体験（実際に鳴り砂の音を聞く）なども行われました。

■ 感想

北海道で分布しなくなったショウジョウトンボがビオトープイタンキで羽化され観察されたことや、活動当初から「ホタルの復活」を大きな目標として幼虫を放流し、イタンキ生まれのヘイケボタルが復活したことなどこれまでの活動を参加者は熱心に聞き入っていました。

また、鳴り砂は日本各地に30か所ほどありますが、なかでもイタンキ浜の砂に混じる「石英」は良質で透明、「天使の涙」と名付けられ、砂に混じる「石英」が擦れ合って「キュキュ」と音をだします。会場で体験して結構大きな音がするのでビックリ、機会があったら是非自分の足で確かめたいと参加者の声もありました。

講話だけでなく体験や展示物に触れる時間があり、参加された方は楽しんでいました。

どちらも参加者からの質問は活発で感心の高さがうかがえた分科会でした。



11 分科会

災害ボランティアの在り方について

講師

三松正夫記念館
しらおい防災マスター会



■ 実施内容

分科会⑪では、災害時におけるボランティアの在り方を共通テーマに、講演と演習の2部構成で行われました。

講演では、壮瞥町にある三松正夫記念館（昭和新山資料館）の館長であり、昭和新山の現在の所有者でもある三松三郎氏より、有珠山噴火の時の様子や災害時の心得についてお話を頂きました。

演習では、白老防災マスター会のメンバーの方々の指導により、災害時の避難所運営を模擬体験できるHUG（避難所運営ゲーム）を利用した演習が行われました。また、会場の外でも身の回りにある物ですぐに作れる簡易的な防災用品や、防災に係るパネル展示が行われました。

■ 感想

ここ数年、各地で大きな災害が頻発している影響か、参加された方もかなり熱心に取り組まれていたように見受けられました。

実際に幾度も災害に遭われた三松館長のお話には非常に説得力があり、「自然災害は完全に防ぐ事はできない」「防災よりも減災に努める事が重要」という言葉に感銘を受けました。

その「減災」で重要なのが日常的な災害の周知・啓発活動であり、その実践者であるしらおい防災マスター会の皆さんの指導でHUG演習が行われました。通常の演習に比べると半分くらいの短い時間ではありましたが、北海道の地域特性を盛り込んだHUGキットを使用した分、中身の濃い内容になっていたのではないかと思います。



交流会

■ 開会挨拶

社会福祉法人室蘭市社会福祉協議会

会長 大久保 昇



■ 交 流

みんなで名刺交換・抽選会



■ アトラクション

「室蘭ばやし」を踊ろう



■ 閉会挨拶

ボランティア愛ランド北海道2016
inむろらん実行委員会

副実行委員長 岡田 利實



開 会 式

■ 開会挨拶

ボランティア愛ランド北海道2016
inむろらん実行委員会
実行委員長 小林 與志美



■ 祝 辞

北海道知事 高橋 はるみ 様

代理 北海道胆振総合振興局 保健福祉部
くらし・子育て担当

部 長 松谷 雅一 様



■ 祝 辞

室蘭市長 青山 剛 様

第 40回道新ボランティア奨励賞授賞式

■ 贈呈者

公益財団法人北海道新聞社会福祉振興基金
常務理事 南出 裕 様

■ 授賞10団体

〔一般奨励賞〕 9 団体

札幌市 特定非営利活動法人 札幌たんぽぽ助け愛
函館市 特定非営利活動法人 ナルク函館「はまなす」
旭川市 自主夜間中学 旭川遠友塾
岩見沢市 いちいの会
恵庭市 恵庭市点訳赤十字奉仕団
登別市 郷土資料館ボランティアグループSLG
鷹栖町 めくもり友の会
羽幌町 羽幌みんなでつくる自然空間協議会
遠別町 遠別町読み聞かせボランティア
「ぐう・ちょき・ぱあ」



〔特別奨励賞〕 1 団体

釧路市 阿寒町ボランティア団体連絡協議会



講演

テーマ 気象の視点からみる北海道の魅力
ー防災から考える地域づくりとはー

講師

気象予報士・防災士・室蘭ふるさと大使
濱崎 慎二 様



◆ 気象予報との出会い

小・中・高校を室蘭で過ごし、大学は小樽商科大学に進学しました。大学卒業後は一般企業に入社し、車に付けるアンテナをつくる仕事をしていました。

趣味で資格をとりたいと思い、本屋の資格コーナーで1番最初に目に飛び込んできたのが気象予報士の本でした。「これだ!」と思い、5、6年かけて取得できればと思っていましたが、1年間で資格をとることができました。そこで資格を生かした仕事をしてみたいと思い、現在所属のウェザーマップに転職することができました。

◆ 気象キャスターの仕事

2年間東京で、画面にでる仕事ではなく裏方をやっていました。今年で4年目になりますが、当初はヒヤヒヤしたこともありました。最近は、だいぶ板に付いてきたと言われるようになってきました。気象キャスターの仕事は一言で言うと「天気を分かりやすく伝えること」です。天気予報は、観天望気、雲の形、風の向き、空の状況、全てを利用します。今はスーパーコンピューターのシミュレーションが基礎になっています。その結果をもとに、雨や晴れが出やすい場所、気温が上がりやすい場所などの癖を取り除き、細かな部分を修正し皆さんに伝えています。天気予報として整えるのが気象キャスターの仕事です。

◆ 気象キャスターの1日

1日のスケジュールは、テレビに出ない準備の時間の方が長いです。11時の予報は、明日、明後日に加え週間予報も一緒に更新されるので、それに合わせ出勤しています。午前中にはお天気チェックの内容を決め、午後には外の様子を毎日、雨、風の日も見えています。実際に見て肌で気象を感じ、予報に少しでも役立てたいと毎日思い外を見て、天気図を解析し予報を作っています。テレビに映る時にはメイクもばっちりしています。メイクが終わると、CG画面の順番やどの画面を使うか作っていきます。最終的に予報更新を見て内容を確認し、出番になります。番組終了後の反省会、明日の準備・仕込みをやって20時から21時に帰宅します。出社は遅く、生活のリズムはずれていない毎日です。

❖ 気象から見る北海道の魅力とは

「気象のバリエーションが多いこと」大きな要因は海

海はどのくらい影響するか、イギリスのロンドン、北海道の札幌、稚内、1月の平均気温を都市の緯度と比べると、ロンドン北緯51度、札幌よりも北にあり、寒い場所なのかと思うのですが、実際にロンドンは+5.8度、札幌・稚内は氷点下です。ヨーロッパには北大西洋海流が流れており、この影響を受けてイギリスは緯度の割に気温が高いと言われています。

北海道の海は回りに3つの海、日本海、太平洋、オホーツク海、それぞれの海が違った性格を持っています。海に面した都市で札幌、網走、釧路、気温を見ると1年で最も寒い時期は1~2月と言われています。最低気温を見ると3つの都市で最も低いのは実は網走です。冬場に氷点下30度を下回ったニュースをみると陸別町など内陸のイメージがあると思います。なぜ沿岸の網走で冷え込むのかというとオホーツク海の2月は流氷がやってきます。海が閉ざされると沿岸の網走でも内陸のようになり、流氷が接岸すると寒さが厳しくなると言われています。

また、流氷は世界にはいくつか南下する場所がありますが、世界的に見ても北海道が最南端となっています。流氷に加え、ダイヤモンドダストという現象も見られます。太陽光に照らされキラキラ輝いていて、かなり冷え込まないと見えません。平地で広い範囲で観測されるのは北海道だけです。気温が低いため、雪の質も本州とは違いさらさらの雪が降ります。スキーヤーが国内外からパウダースノーを求めてやってきます。

そして最高気温が1年で最も高いのは8月くらいです。どこで一番気温が上がるのか、日本海側の札幌の夏は南風が入り、フェーン現象が起きると風下側で気温が上がる傾向があります。また、釧路の気温はかなり低くなっており、霧の影響が大きいと言われています。暑さを避けるために釧路に滞在するのもよいかもしれません。このように海のバリエーション、気象のバリエーションが多いのが北海道です。

北海道はなぜ梅雨がないのか

6月頃は東京と比較すると札幌の方が日照時間が長くなっています。梅雨は南にある太平洋高気圧と北から張り出すオホーツク海高気圧、2つの高気圧のせめぎ合いで前線が発生し、北へ行ったり南へ行ったり、停滞することで夏は太平洋高気圧の勢力が強く梅雨前線が北上してきます。北海道まで来るところには北上の速度は速く、前線も弱まって本州ほどの雨を降らせる力がなくなっていくます。梅雨がないと言われているのがその要因です。ただ、温暖化の影響で北の地域ほど、今後気候が変わると毎年梅雨のような気候に変わる可能性が考えられます。

気候のバリエーションを生み出す食の恵み

北海道は地域によって、日本の食料庫として自然を生かした農業が行われている。代表例が十勝のジャガイモです。十勝のジャガイモがど



んなふう気候で生かしているのか。冬に土壌凍結地帯となります。前年の収穫から漏れたイモは、畑に残ると土の栄養を吸って成長を阻害することがあります。

土が凍ることで野良イモが死滅し、翌年のイモに成分を集中させることができます。大規模な農地管理を省力化できます。気候を生かした例です。

またタマネギ産地の北見も同じです。北見市などの「きたみらい」

地域が全国で出荷量1位。まるまる大きくなるには長い日照時間が必要です。オホーツク内陸で反対に山があり、雨雲がブロックされるため晴れます。食以外にもソーラーカー大会も行われます。

また、北海道は稲作に向いていないと言われてきました。きらら397は奨励品種になります。格段に味が良くなり、今ではゆめぴりか、ふっくりんこなどのブランド米がたくさんあります。寒冷な気候で品質改良した結果、寒冷気候を生かし、低温で保存することで鮮度を保っています。

◆ 防災から考える地域づくり

公助・共助・自助から考える

北海道は防災が重要です。例えば近年、極端な気象が増えていると言われています。

2013年の3月に暴風雪で中標津町の9人が亡くなった災害がありました。また近年激しい雨が降る回数が増え、バケツをひっくり返す表現を耳にします。1時間30^分以上降る回数が年々増えていると言われています。

北海道は面積が広く、行政だけで全てを管理するのはほぼ不可能です。そこで、各地域での防災活動が重要になっています。では、各地域での防災活動はどんなことでしょうか。

防災士の資格をとった時に、防災の3つの柱を学びました。

- ①公助＝行政による防災対策、防災施設建設、災害が起きた時の危機管理体制の構築。
- ②共助＝隣近所助け合い、企業など得意分野を生かし防災に取り組む。ボランティアも入ります。
- ③自助＝自分で自分を助ける。自分の身を守る。災害の時に一番の基本になります。

伊勢湾台風を機に昭和36年災害対策基本法が制定されました。これで防災は行政の仕事と明確化されました。公助が重要だと考えられ、行政防災の取り組みで災害を減らすことができる。その後のインフラの整備が行われ、地震の耐震性も高められ犠牲者は減り、公助中心の災害対策の成果がありました。



ただ阪神淡路大震災、東日本大震災と過去最大で未曾有の災害犠牲者も多くなりました。この災害で自分の身は自分で守ること、自助・共助が大事であると変わって来ました。

生き埋め、閉じこもりで救助された結果をみると、自力34.9%、家族31.9%、友人隣人近所の人28.1%、通行人2.8%、4つが自助と共助の要因で97.5%となっています。つまり、災害発生直後は自助、公助など身近な人で助け合うことが大事なることが分かりました。救助隊は1.7%と大災害発生直後は行政活動が機能しなくなることがあります。

自分の住んでいるところでの災害が発生すると役所も被災します。津波で流される場合もあります。

共助の力を高める

自助・共助、今はその力が弱くなっていると言われています。自助は高齢化、個人の体力、大雪のため自力で高齢者避難は難しく、体力的な限界もあります。さらに共助は、疎遠化でその力が弱くなっていると言われます。こうした傾向が都会ほど強いと言われています。

札幌に住んでいて40世帯入っているマンションにいますが、近所の顔を知っている人はほとんどいません。どんな家族、どの階に住んでいるか知らない。災害時お互い助け合うのは難しくなります。自助・共助の力が弱まっている中で自助には限界があります。

そのためには共助の力を高め、チームで災害を乗り越えることが大切です。具体的には地域のつながりを作っておく、町内会のお祭りイベントなどで交流を深めることも防災の1つになります。またチームとして形を作る、自主防災組織を作ることも重要です。全国での組織率は75.6%とかなり高いですが、実際は結構知られていないことも多いです。自主防災組織を作るのは、新たに立ち上げる、町内会と既存の集会を活用し、自主防災組織にすることもできます。

自主防災組織の役割

自主防災組織の仕事はたくさんあります。防災知識の普及、地域の災害危険の把握、自分の住んでいるところでどんな災害に弱いのか、風、雨、起きる恐れがあるか、普段から周知することなどです。その上で災害時の避難方法、火気使用機具や防災資機材の整備・点検を行っておくことも大事です。災害情報の収集、地域でどこが危険か、そうした情報を住民に

伝えることや地震の後は火事出火防止、大きな地震でたくさんの火災が起きると消防車が到着まで時間がかかるため、初期消火は自助・共助で自主防災組織の大事な活動です。

住民が避難誘導を率先して住民を避難所に送り届けることも求められます。

すべては減災の考えに基づいています。災害自体は抑えられない。災害の被害を最小にするための取り組みです。



防災訓練の仕掛け方

地域で防災訓練を行うとなかなか人が出てこないをよく聞きます。そもそも防災訓練を楽しんでやっている人はいません。いざという時の備えでやっておく、渋々参加する人もいます。

「正常化バイアス」と言われ、災害起きても自分だけは大丈夫との心理が働くと言われています。どのように効率的に人を集めるか、楽しい行事と絡

め、バーベキュー、防災キャンプ、地震で建物の被害を受けた場合など、外でテントを張って暮らす、熊本地震でも、車中泊で何日も過ごした人がいました。そうした時に災害直後の避難とは状況が違うが、いざという時ねぐらを確保することができます。

さらに、子ども会など地域のイベントで地域組織と連携し防災訓練行うことも考えられます。代表的なのが学校です。避難訓練を定期的にやっているの、そこに人が集まる方法もあります。訓練の意義は、「やったことがある」が大切です。未経験のことはできません。消火訓練で消火器機材を使ったことがある。口をハンカチで押さえ姿勢を低くして逃げるなど、経験し感じたことがあることが大きな意義です。

また「役割の自覚」も大切です。自主防災組織、チームでの活動をする際、自分は何をしてよいか分からないではなく、自分はこれをやる、自覚することで組織での使命感、責任感が出てきます。災害の際の機材はなかなか使う機会はありません。実際に災害が起きた時に道具を使いこなす準備、定期的に点検することが大事です。さらに考えたいのは、多様な主体の地域防災です。スーパー、ホームセンター、コンビニ、ガソリンスタンド、普段食料を確保することが大切になりますが、地域全員で保管すると大きな倉庫が必要になります。

普段の物流の中から災害時には食料などを確保する「フロー備蓄」。企業の得意分野を生かして災害に備えることが大事です。大学、高校、中学の学生・生徒、いざという時に協力して助け合うことが大事になります。釜石の軌跡とよく言われます。中学生が小学生を誘導した結果、助かりました。自ら避難所の手伝い、ボランティアで災害を乗り切るたくさんの主体による地域防災が大切になります。

まとめ

公助は限界があります。災害発生直後は自助、共助が大事になります。地域の防災力を高めるには自助と共助を高めることが大事です。形が見える物は自主防災組織です。組織があるのか、確認しておくことも大切です。組織の役割、平常時から防災訓練を行うなど、災害直後の救助情報伝達などさまざまな活動があります。さらに住民の防災意識を高める楽しく続けられるイベントと絡め、行うことが有効な手段になります。



閉会式



■ 閉会挨拶

北海道社会福祉協議会ボランティア部会
部会長 西川 勝夫



愛ランドのーコマ







実行委員・協力者一覧

※敬称略

実行委員	小林 與志美 (実行委員長)	室蘭協力ボランティア	藤 森 敦 子	手話通訳	馬 場 由香利
	岡 田 利 實 (副実行委員長)		長 坂 晃 也		石 川 まち子
	岩 澤 博 徳		亀 山 あけみ		出 村 清 美
	榎 本 吉 幸		山 本 ツル子		境 直 子
	田 村 リツエ		小 林 嘉志子	司会者	小笠原 房 江
	太 田 誠		薦 田 由紀子		成 田 栄 一
	住 友 千鶴子		東 和 子		手 塚 陽 佑
	弘 瀬 瑠美子		大 原 妙		山 口 きらら
	金 丸 悦 子		市 川 千恵子	室蘭市役所 協力職員	橋 場 亮 介
	後 藤 隆 夫		太 田 なか子		塩 越 裕 子
	菊 地 昭 榮	胆振管内協力社協職員	横 道 不二夫	(栗林航空サービス) 受付窓口	田 辺 竜 一
	對 馬 克 子		後 藤 光 弘		小 林 悦 子
	新 木 正 之		菊 地 直 忠		桃 野 樹
	鎌 田 律 子		椎 名 保 彦		直 井 聖 美
	細 野 幸 子		重 本 大 輔	道社協	高 橋 美 樹
	西 野 美樹子		富 田 茂 樹		東 めぐみ
	吉 田 千 恵		細 木 克 悦		西 川 勝 夫
	高 橋 本 子		高 橋 光 暢		林 光 彦
	入 江 祐 史		山野下 誠		齋 藤 義 夫
	舩 田 喜代志		佐 藤 秀 次		山 崎 真 裕
	菅 原 邦 彦		小 松 弘 幸		保 坂 奈 緒
	胆振管内 協力ボランティア	要約筆記	榎 本 あつ子		戸 嶋 信 司
			三 浦 美代子	事務局	原 田 知 美
			川 畑 久美子		堀 敏 雄
			金 盛 裕 子		小 島 雅 彦
室蘭協力 ボランティア	青 木 佐智子	手話通訳	須 田 暁 子		熊 谷 雄 公
	佐 藤 アイ子		菅 藤 絹 江		高 田 祐 司
	東 峰 圭 子		手 塚 重 子		伊 藤 真 吾
	金 子 裕 子		石 尾 美智子		工 藤 義 仁
	森 木 治 代		大 鎌 佳奈美		五十嵐 あかね

愛ランド準備・運営の一コマ





ボランティア愛ランド北海道2016inむろらん